

ひろげよう
こころのネットワーク

12月号には、音声コードを印刷しています。専用の読み上げ装置で読み取ると、「きずな」の内容を音声で聞くことができます。

12
December 2018 (平成30年)



兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

ひょうご人権ジャーナル

KIZUNA

きずな

特集 障害のある人

だれもが
自分らしく生きる

INDEX

- 2 好きなことができることは幸せ
濱田 祐太郎さん(芸人)
- 3 障害のある人もない人も、
共に生きる社会のために
植戸 貴子さん(神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科 教授)
- 4 住みやすい街づくりは
障害者と共に考える
三田 優子さん(大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 准教授)
- 5 障害者の自立と社会参加を支える補助犬
～身体障害者補助犬法～
高柳 友子さん(社会福祉法人 日本介助犬協会 専務理事)
- 6 『めぐみへの誓い』横田滋役を演じて
原田 大二郎さん(俳優)
- 7 ふれあいサロン
- 8 情報ぷらざ

12月4日～10日は人権週間です。

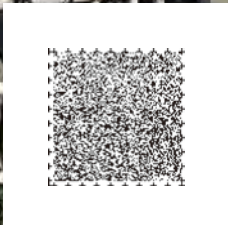
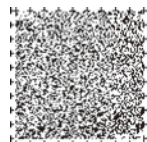


Photo 赤穂市 赤穂城跡

しかし、今もなお、障害のある人への偏見や差別、店舗でのサービス等の拒否などの人権に関わる課題も残っています。本号では、障害の有無にかかわらず、互いの人格と個性を尊重し合うことのできる共生社会の実現について考えてみましょう。



この人に
聞く!

好きなことが
できることは幸せ

芸人
濱田 祐太郎 さん

白杖を手にスーツ姿で舞台上に立ち、

視覚障害者ならではのエピソードを漫談で披露する濱田さん。劇場のライブやイベント等、活躍の場を広げている濱田さんに話を伺いました。

芸人になろうと思ったきっかけは

小さい頃からお笑いが好きで、小学校6年生の頃から「よしもと」の番組を見ていました。中学生のときに、本格的にお笑い芸人になりたいと思うようになりました。NSC（吉本総合芸能学院）に入学し、無事に卒業できた時は、「ここから始まる」と気持ちが引き締まりました。

初めて舞台上で芸を披露した時の気持ちは

とにかく緊張しました。ですから、当



時のことはよく覚えていません。お笑いの仕事の魅力はたくさんの人を笑わせることで、その場ですぐに結果が出るのが醍醐味であり、やりがいでもあります。普段は引込み思案な性格なのですが、舞台ではテンション高く振る舞うことができます。人を笑わせることがとにかく楽しいです。

R-1ぐらんぷりに出場し優勝したときは

自分が優勝したという実感はあまりありませんでした。これまで目の見えない芸人が優勝することはなかったのですが、障害のある人が障害があるがためのエピソードを話すことはよくありますが、「濱田がしゃべるからおもしろい」と言われたことがうれしかったです。普段は仕事のことは話さない家族からも「おめでとう」とメールをもらいました。

芸人としての喜びや苦労は

自分が子どもの頃に見ていた番組に出られるのはうれしいです。一方で、苦労ではないのですが、表情や動きでおもしろさを伝えられているかを自分自身で確認できないので、他の芸人仲間がうらやましい部分もあります。

舞台上立つ中で大事にしていることは

お客さんの反応

が見えないので、わかりやすい言葉で伝え、芸人として人を楽しませることを第一としています。そのために、自分がおもしろいと思うことをやって、自分も楽しみながら舞台上立つように心掛けています。

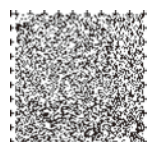
濱田さんを支えているものは

「負けたくない気持ち」と「お笑いが好きという気持ち」だと思います。僕の芸をどう受け止めるかはお客さん次第ですが、お客さんが僕の芸を見て、聞いて、楽しんで笑ってくれることが仕事を続けられている原動力です。

今後の活動は

舞台のほかにトークバラエーターにもどんどん出演して、芸人としていつまでも人を楽しませていきたいです。

今回の取材の後の舞台でも、ファンとのエピソードを披露し、会場から大きな笑いが生まれていました。これからも濱田さんは、自分らしさを発揮して芸人として輝き続けます。



障害のある人もない人も、共に生きる社会のために

神戸女子大学 健康福祉学部社会福祉学科 教授

植戸 貴子 さん
うえと たかこ

障害者の社会参加が進む一方で、根強い偏見や差別

東京パラリンピックを控えて障害のあるアスリートの活躍が紹介され、街では車椅子や白杖のユーザーに出会うことも増えました。障害者の社会参加が進んできたことの証（あかし）でしょう。しかし、すべての障害のある人が地域の中で自分らしく暮らし、働き、学び、楽しむことができていないわけではなく、障害者に対する偏見や差別は根強く残っています。

障害を理由とした差別をなくし、障害者の権利を保障する

「障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」をめざして、障害を理由とした差別を解消するた

めの「障害者差別解消法」が2016（平成28）年4月から施行されています。

「障害を理由とした差別」には二種類あります。一つは「不当な差別的取り扱い」です。「正当な理由なく、障害があるということとサービスなどの提供を拒否したり、制限したり、障害のない人にはつけない条件をつけたりすること」です。障害者というだけで、入店や宿泊を断る、アパートを貸さない、一人で移動するのに介助者付きでないと入場を認めないなどです。この法律が十分に知られていないこともあり、多くの障害者が不当な差別的取り扱いを経験しています。

もう一つは「合理的配慮の不提供」です。「合理的配慮」とは、「障害者から何らかの配慮を求める意思表示があつた時に、負担が重すぎない範

囲で対応すること」で、車椅子の人の段差越えを手伝う、役所の窓口で聴覚障害者と筆談でやりとりする、レストランで視覚障害者にメニューを読み上げるなどです。この「合理的配慮を提供しないこと」も差別とみなされます。「合理的配慮」は障害者に「特権」を与えることではなく、障害のない人と同じ権利を保障するために必要なこと、というのがポイントです。

障害のある人もない人も、共に生きる社会のために

大切なことは、障害のある人が差別・排除されることなく、障害のない人と同じように社会生活を営めるよう必要な調整や工夫をすることです。街の中でちよつとしたサポートが必要になった時に、周りの人に声をかけたら気持ちよくお手伝いし

てもらえる社会は、誰もがお互いに助け合える、暮らしやすい社会と言えるでしょう。



Profile

神戸大学教育学部特殊教育科卒業。米国ニューヨーク州立大学オールバニー校社会福祉修士課程修了。関西学院大学人間福祉研究科博士課程修了。社会福祉士、精神保健福祉士。高齢者や障害者の施設でソーシャルワーカーとして勤務経験あり。専門は障害者ソーシャルワーク、特に知的障害者と家族の相談支援。



住みやすい街づくりは障害者と共に考える

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科准教授

三田 優子^{みた ゆうこ}さん

民生委員さんを助けてあげる！

先日、地域の民生委員約100名と障害当事者たちとで防災に関するフォーラムを開催しました。私はコーディネーターとして登壇したのですが、口火を切ったのは精神障害者Aさんでした。「民生委員さんご自身はどんな防災対策をしているのですか？」「高齢化している民生委員さんが僕たちすべてを助けるのは難しくはないですか？」などの素朴な質問からスタート。普段、支援者側のスタンスから尋ねられることが多い民生委員は少し驚いたものの、「私は最近、腰痛が気になって自分が避難できるかどうかさえ心配になる」「市は民生委員にたくさん期待するのでしんどくなる」など本音トークを展開したのです。

話しているうちにその民生委員さんとAさんとはご近所さんだと判明すると、Aさんが「自分は寝る

前に精神科の薬を飲んでいたので寝起きからしばらく頭がぼーっとしている。でもまだ若くて体力はあるので、災害が昼以降に起こったら僕が民生委員さんの家まで走り、背



負って逃げてあげるよ！」と発言しました。

すると知的障害者Bさんも「私の人がたくさんいる施設で過ごしたことがあるから、避難所でもやっていける自信があります。でも民生委員さんたちは心細かったりしんどくなったりするかも知れないので私が避難所で助けてあげます！」とにこにこしながら話しました。

会場は笑いと拍手、そしてなんとも言えない温かい空気が流れました。

誰もが同じ市民として

私はふと、停電が続く夜間でもいつものように家の中を歩き、てきぱき家事をしていた視覚障害者Cさんを思い出しました。「肝心なのは、物をあちこちに置かず定位置に整理することよ」「玄関前は特に工夫して！」などと防災の極意を私に伝

授してくれた人です。

何がいつ起こるかわからない中で暮らすのはだれも一緒です。障害者も誰かを助ける側にもなれるのです。また、障害者の体験や知恵は、誰もが住みやすい街へと変わるヒントにもなるので、同じ市民としてあらゆる場面に障害者も参画する、つまり「排除」や「援助」ではなく「共生」のための方策を真剣に考える時を迎えているのです。

Profile

専門は障害者福祉。大学時代から精神障害者の作業所やグループホーム等でボランティア、スタッフとして従事する。愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所、花園大学を経て2006(平成18)年より現職。社会活動として大阪市社会福祉審議会委員、堺市障害者施策推進協議会委員、茨木市地域自立支援協議会会長など務めている。

障害者の自立と社会参加を支える補助犬 （身体障害者補助犬法）

社会福祉法人 日本介助犬協会 専務理事

たかなぎ ともこ
高柳 友子 さん



身体障害者補助犬とは

身体障害者補助犬とは、日本では50以上の歴史を持つ盲導犬、2002（平成14）年に初めて法律上の位置づけを持った介助犬と聴導犬の三種類を総称した、障害者の自立と社会参加を促進することを目的に訓練された犬のことをいいます。視覚障害者に段差、障害物、曲がり角を教えることで歩行を安全に誘導するの

が盲導犬、手足に障害のある方に落としたものを拾って渡し、手が届かないものを持って来たり冷蔵庫や引き出しを開けて指示された物をくわえて渡したり、また、歩行補助などの移動支援等の日常生活動作を障害者のニーズに合わせて補助するのが介助犬、聴覚障害者にドアのチャイムやノック、車のクラクションや自転車の呼び鈴、目覚まし時計や赤ちゃんの泣き声などの音を知らせ音源を教えてくれるのが聴導犬です。補

身体障害者補助犬法とは

障害者の社会参加を保障するために、使用者が補助犬の健康・衛生・行動管理に全責任を持ち、他人に迷惑をかけることなく社会参加できるところを厚生労働大臣指定法人が認定をし、社会は補助犬の同伴を拒んではならないとする身体障害者補助犬法が、2002（平成14）年5月22日に超党派の議員立法で成立しました。この法律制定のきっかけになったのは、宝塚市在住の頸髄損傷者木村佳友さん（みむら よとも）と故・介助犬シンシアでした。シンシアと出かけることで「物を落としても拾える」「万が一転倒してもシンシアが携帯電話をとって来てくれるため助けを呼べる」と自立度は改善したものの、法律がないためにシンシアはペット扱いでした。そんな介助犬をどこにも同伴できない社会を変えたいとい

う木村さんたちの思いが国会に伝わり、議員立法へと繋がっていききました。しかしながら、15年以上経った現在も補助犬法の存在が知られていないことで、いまだ「犬は置いて来て」と同伴拒否がなくならないのが現状です。特に医療機関での同伴拒否または「同伴受け入れ可能。ただし診察室、検査室、病室は不可」など、間違った受け入れ態勢が多いのが実態です。

補助犬は補助犬法に則って使用者に適切に管理をされており、迷惑をかけることはありません。補助犬を断ることは使用者である障害者を拒むことと同じであることに理解が深まることを願っております。

Profile

医学博士。日本身体障害者補助犬学会理事。1991（平成3）年愛知医科大学医学部卒業。沖縄県立中部病院研修医、舞鶴市民病院内科医師研修を経て、現在はリハビリテーション科医師として介助犬を通しての障害者の自立と社会参加支援に取り組む。

社会福祉法人 日本介助犬協会

<https://www.s-dog.jp>

厚生労働省 補助犬情報

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku_nitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/hojoken/index.html

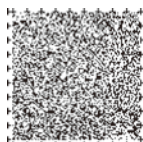
世界人権宣言 70周年

20世紀には、世界中を巻き込んだ大戦が二度も起こり、特に第二次世界大戦においては、特定の人種の迫害、大量虐殺など、人権侵害、人権抑圧が横行しました。このような経験から、人権問題は国際社会全体にかかわる問題であり、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方が主流になってきました。

そこで昭和23年（1948年）12月10日、国連第3回総会（パリ）において、「すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準」として、「世界人権宣言」が採択されました。

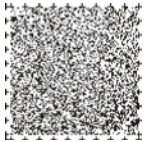
私たち一人ひとりが、お互いの人権の尊重を感性として育み、日常生活の中で人権尊重が自然に態度や行動として表すことが文化として定着している社会をめざしましょう。

70 世界人権宣言
#STANDUPFORHUMANRIGHTS



きずな TOPIC

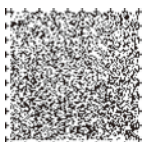
拉致問題の 解決に向けて



『めぐみへの誓い』

横田滋役を演じて

俳優
原田 大二郎さん
はらだ だいじろう



北朝鮮当局による拉致問題を題材にした舞台劇『めぐみへの誓い』に毎年出演中の原田さん。「私たちは、拉致された人たちのことを忘れてはいけない」という強い思いで演じ続けているそうです。

出演を決めた時の気持ちは

この劇の演出家・野伏翔氏をとっても信頼していますので、出演オファーがあつたとき、二つ返事で引き受けました。脚本を読んで、不条理に自由を奪われためぐみさんの怒りと苦しみ、横田滋さん早紀江さんの苦悩と、悲しみには、大変共鳴しました。

中学一年生の娘をさらわれた当時は、「神隠しだ」「拉致被害者家族は騒ぎすぎだ」と言われたこともあつたようです。それでも娘の無事を信じ、41年にわたって運動を続けた横田夫妻の努力は大変なものでした。「そんな人物を演じるのには、大変な覚悟が必要だ」と思いました。

この舞台劇で演技する際、心掛けていることは

拉致被害者の家族のみなさんの声を代弁しているわけですから、横田滋さんの心情を忠実に表現しようと思っています。一般の人々に起きた事件なので、拉致問題啓発劇だとは考えすぎないよ

うにしています。

出演の前後で、拉致問題解決に対する考えや思いに変化は

僕は基本的に、「人が人の自由を奪うのは罪深いことだ」と考えてきました。今でも、僕の思いは変わっていません。ただ、『めぐみへの誓い』の脚本に接して、深く拉致問題について考えるようになりました。この演劇に出合ったことにより、非常に具体的に、拉致問題が人の自由を奪った重大な事件だと確信するようになりました。

拉致問題解決に向けて、私たち一人ひとりができることは

まず、拉致問題が実際に起こったのだと知ると、また、多くの被害者がいて、その家族の人たちは40年間を超える時間を大変な思いで生きているのだということに気付くこと、そして人の自由を奪うことがどれほど罪深いことかを叫び続けることです。この問題を風化させずに、「拉致被害者を返せ」と叫び続けなければならぬと思います。願わくば、この芝居を見て、その感動を拉致問題解決のエネルギーに変えてほしいです。

日本人は、助け合いの民族だと言われます。困難にぶつかった時の日本人の耐久力と互助精神

は大したものです。互いの人間性を認める力は、世界に誇れるものです。みんなが手を取り合い、住みやすい社会を作っていくのは、僕ら自身に任されているのです。

今後の抱負は

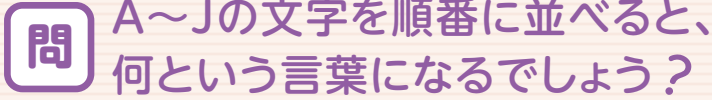
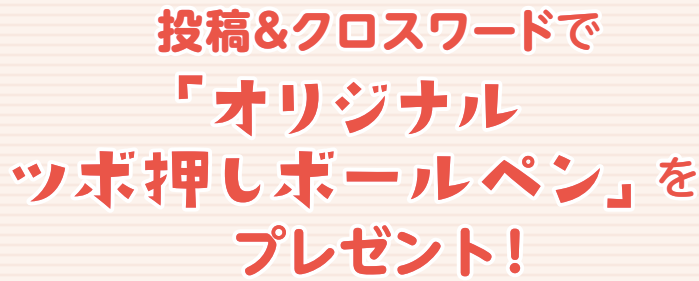
まだやり残した役があります。再演したい芝居もいくつかあります。それらをひとつずつやりながら、拉致問題の解決を叫び続けていきます。決してあきらめずに、懸命に将来を見通しながら生きて、若い人たちに、演ずる喜びを伝えていきたいです。



※詳しくはP8イベントガイド

Profile

山口県出身。明治大学法学部卒。英語部(ESS)で英語劇に出演し俳優を志す。文学座に入り、後フリー。1970(昭和45)年映画『裸の十九才』でデビュー。『新・平家物語』『水もれ甲介』『Gメン75』『天才たけしの元気が出るテレビ』等に出演。舞台『坂本龍馬』『夏の夜の夢』『検察官』『ゴドーを待ちながら』『翼の卵』など多数。



- 1 身体に障害を持つ人の生活を支援する犬。介助犬・聴導犬・盲導犬の三種類があります
2 「少年老いやすく、〇〇なりがたし」
3 家庭でも学校給食でも子どもたちに人気No.1の食べ物。「〇〇〇ライス」
4 公的ではない個人にかかわること
5 文化・教養。「〇〇〇〇〇ショック」
8 寒い日に首に巻きます。こんな名前のトカゲもいます
11 野球や陸上競技などのシューズの底につける滑り止め
13 “妻”のことです
14 物の良さ・大切さなどの度合い。「〇〇観の相違」

- 1 心が晴れ晴れとしてこだわりのない様子。
「○○○○に毎日を過ごしたい」
- 4 歯の治療に訪れるのは「○○医院」
- 6 巻物や掛物の心(しん)にする丸い棒
- 7 ある人や事物に与えられる評価。主観に基づく一方的な
評価で「○○○○を貼られる」のはご免です
- 8 英語のアルファベットの第1字
- 9 良いこと、めでたいこと。おみくじで「大○○」を
引き当てると幸せな気分になれます
- 10 すべての人には「幸せに生きる○○○○」があります

- 12 働く人の労働力・人手のことで。
「○○○○○が足りない」などと表現します
- 14 栄養たっぷりの冬の味覚。
播州赤穂で養殖されているものもおいしいと評判です
- 15 何事にも「はいはい」と従うこと。「○○諾々」
- 16 かなりの時間が経過した時点。
「清作は○○に医者になり野口英世の名で世界中に知られた」
- 17 困難な問題や状況を解決して前へ進むこと

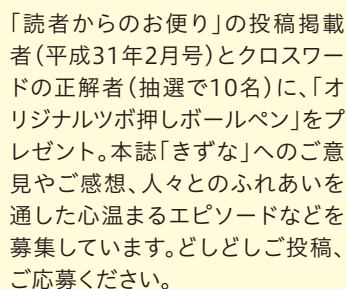
10月号の答え アレマツムシガナイテイル

特集の「職場と人権」を読んで、自分もその気でなくても間違った接し方や態度をしているかもしれないと思い気を付けたいと思いました。そういう状況の誰かを見かけた時に上手く引き離す方法を書いていたので、今度からは実践できそうでうれしかったです。

(神戸市 まみまこさん)

「きずな」を拝読し、今の日本の働き方について考えさせられました。仕事は楽しくやりがいを持って自分の力を発揮し、社会の一員として何かどこかで役立てればと考えます。今は派遣となれば3年で区切り、続けられない現状。じっくり技を磨いたり継続することでわかることも多いのに、コロコロかわると人が育たないのではと懸念されます。努力が発揮でき認められる社会を望みます。

(赤穂市 あんこさん)



※投稿掲載時はペンネームの使用も可能です。
※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

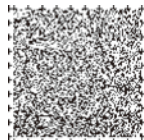
はがき、FAX、Eメールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネームを使用の場合も要併記)、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。

1月7日(月)締め切り(必着)

〒650-0003
神戸市中央区山本通4-22-15
県立のじぎく会館内
(公財)兵庫県人権啓発協会
「きずな」ふれあいサロン係

TEL 078(242)5355
FAX 078(242)5360
Eメール info@hyogo-jinken.or.jp

※応募者および投稿者の個人情報は、管理を適切に行い、誌面づくり以外の目的には利用いたしません。



県警からのお知らせ

兵庫県警察では、北朝鮮による「拉致被害者」の**ありもと けいこ**さんと**たなかみのる**田中実さんに関する情報や、「拉致の可能性を排除できない行方不明者」の方々に関する情報提供を求めています。

お心当たりのある方は、兵庫県警察本部外事課まで情報をお寄せください。

皆様のご協力をお願いします。

詳しくは、兵庫県警察ホームページをご覧ください。

兵庫県警察本部外事課

代表電話 TEL 078(341)7441 [兵庫県警察拉致問題](#)

[検索](#)



© T.inoue
INAC神戸 レオネッサ



© 阪神タイガース
HANSIN Tigers

わたしたちも
「人権文化をすすめる県民運動」を
応援しています！

EVENT GUIDE

イベントガイド

イベント名 拉致問題啓発舞台劇公演 (主催: 政府拉致問題対策本部、兵庫県、神戸市)

日時 12月21日(金) 14:00~16:30(開場13:30)

場所 神戸文化ホール中ホール ※神戸市営地下鉄「大倉山」駅より徒歩1分、J「神戸」駅より徒歩10分、各種私鉄「高速神戸」駅より徒歩8分

内容 拉致問題啓発舞台劇「めぐみへの誓いー奪還ー」

上演 劇団夜想会 出演 原田大二郎(横田滋役)、石村とも子(横田早紀江役)他 ※入場無料※事前申込必要 ※定員650名(先着順)

問い合わせ 兵庫県 産業労働部 国際局 国際交流課 TEL 078(341)7711(内線2094) FAX 078(362)3961

イベント名 平成30年度「拉致問題を考える講演会とコンサートの集い」

日時 12月22日(土) 13:30~16:30(開場13:00)

場所 神戸文化ホール中ホール ※神戸市営地下鉄「大倉山」駅より徒歩1分、J「神戸」駅より徒歩10分、私鉄「高速神戸」駅より徒歩8分

内容 ○講演会 演題「拉致問題と人権ー夢と絆を奪われてー」 講師 蓮池 薫氏

○ご家族からのメッセージ 拉致被害者 有本恵子さん両親

○コンサート 出演校 兵庫県立長田高等学校音楽部、神戸市立摩耶小学校音楽隊 ※入場無料・事前申込不要 ※手話・要約筆記有

問い合わせ 兵庫県人権擁護委員連合会(神戸地方方法務局内) TEL・FAX 078(392)0850

※その他のイベント情報は、当協会ホームページ「研修会・イベント情報」をご覧ください。

ラジオ関西「谷五郎のこころにきくラジオ」(毎週月曜 10:00~15:00)で、
14:35頃から「きずな」の記事等を紹介しています。

HALF TIME



8月に朝来市で開催された「ひょうご・ヒューマンフェスティバル」では、各種団体の展示コーナーが設けられていました。その中の(公財)兵庫県身体障害者福祉協会のコーナーで、私は「みんなの声かけ運動推進員」に登録しました。

「みんなの声かけ運動」とは、障害のある人、高齢者、妊婦をはじめ、だれもがまちなかで困っている時に「お手伝いしましょうか?」と率先して声をかけて助け合う運動です。推進員に登録したものの、実際に困っている

人を見かけると、声をかけるタイミングがつかめず、もどかしい気持ちになっていました。

しかし、先日、電車を降りる時にベビーカーを押しているお母さんに「お手伝いしましょうか」と声をかけ、お手伝いできました。自分がお役に立てたことがうれしく、清々しい気持ちになりました。こうしたちょっとした声かけが、だれもが支え合い安心して暮らせる地域社会づくりの第一歩だと実感しています。(西村)

